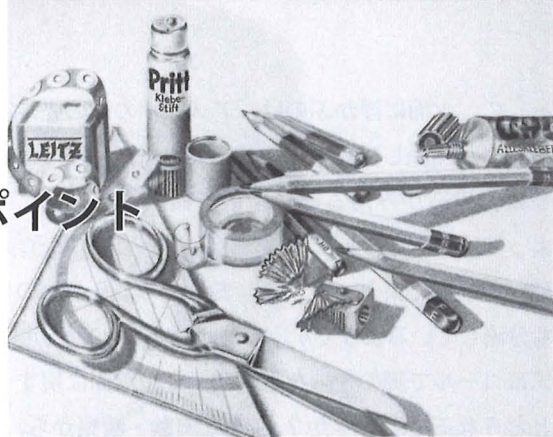




自由研究コンクール入賞のポイント

メタデータ	言語: jpn 出版者: SAMA企画 公開日: 2016-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安居, 光國 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00008632

自由研究コンクール入賞のポイント



安居 光國 YASUI Mitsukuni

自由研究をして「面白いよ」「よく気づいたね」「すごいね」「頑張ったね」と言ってもらえるのはうれしいものです。でも、他の人と比べてどの程度なのか、専門家の評価はどうなのかを確かめたくもなります。そのようなときは、コンクールなどに応募しましょう。

そして応募する以上は入賞を目指す意気込みも大事です。そのヒントをご紹介します。これから自由研究を始める前に読むだけでなく、自由研究をまとめ始めてからでも参考にしていただけると思います。

「参考にしたら入賞できる」とまでは言えませんが、きっとこれまでの作品からレベルアップするでしょう。ぜひ本特集号の「自由研究のテーマの見つけ方」「レポートのまとめ方」も読んでください。

審査の進め方

審査員は審査基準ののっとなって真剣に応募作品を評価します。なぜなら、応募した生徒たちの気持ち全てが全ての作品に表れており、誰もが「なるほど」と納得できる作品に賞を与えたいからです。

コンクールによって異なる点もありますが、図1のように数段階で選考が進められます。

当然ながら審査は時間が限られるために、大型コンクールではノミネートされた作品だけを見ることもあります。また、入賞作品の陰には膨大な作品があるため、逸材が日の目を見ないこともあります。

一次審査

簡単な審査でふるい分けをする。あるいは地域ごとに推薦を受ける。

二次審査

複数の審査員の点数を集計する。

最終審査

仮審査結果を再議論して確定する。

図1 審査手順

審査基準

君はどうして、その興味深い仮説を立てて、どのように証明したのかな。とても努力したかい。

審査員は、大学の著名な教授だけではなく、教育に熱心な小中高の先生、研究機関の方、そしてコンクールによっては主催者側の役員、芸能人が加わることもあります。WEBで募集しているコンクールでは審査員を公開している場合が多いです。審査員に選ばれたのだから確かな目を持っていると思われるのですが、人間のことから好き嫌いが現れるものです。そこで、主催者は審査委員長と相談し、審査基準を設けます。

審査基準には、そのコンクールの趣旨を意識した項目をまず加えます。次はおおむね同じですが、列挙した中からいくつかを使います。審査基準を事前に公開しているものもあります。

- ☆ 独創性、創意工夫が見られる。
- ☆ 研究背景などを事前調査している。
- ☆ 研究計画がよく練られている。
- ☆ 対象物を正確に見ている。

- ☆ 実験技術がある。
- ☆ 数的処理、グラフ化等が適切である。
- ☆ 継続性、努力が見られる。
- ☆ 目的、結果、考察の関連性、論理性がある。
- ☆ レポートの体裁が整っている。
- ☆ チームワーク力が生かされている。

以上を言い換えると、独創的なきっかけのもとに、対象をしっかりととらえて、得られたデータを正確に処理し、論理的に解釈することが研究の本質です。

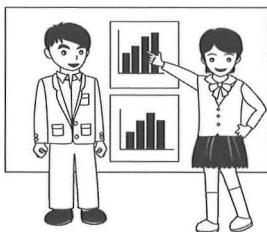
実は審査員は「動機」と「過程」をもっとも大事にしたいのですが、過度に重視すると研究が中途半端に終わったものでも高得点を得ることになります。そのため、これらには、奨励賞、努力賞、審査員特別賞があげられます。

《口頭発表の場合》

最近では高校生を中心に大判のポスター発表が取り入れられ、審査員に口頭で説明をすることが多くなりました。ときには英語でプレゼンテーションもあります。このような場合は上記の基準に加えて、次の観点が加わります。

- ☆ 分かりやすく伝えているか。
- ☆ 図表が適切に用いられているか。
- ☆ 説得力をもって伝えているか。
- ☆ 態度、時間が適切か。
- ☆ 疑問に応えたか。
- ☆ 自分（たち）の力で行われたか。

ポイントは熱意がストレートに伝わるかです。ポスター、態度、受け答えのいずれにも表れるものです。



小中高のちがい

《小学生》

何よりも自由研究のテーマの根本に興味関心があふれ出ていることです。不思議に思ったことに前向きに熱くなっているのが表れていることを期

待しています。教科書から半歩出るぐらいか生活に密着しているのが素直です。なによりも不思議に思う着眼点とチャレンジ精神です。

《中学生》

学校で理科をしっかりと習っているのですから、知識の確認にならないことが大事です。小学生と同様に研究をするに至った理由が大事です。次は研究計画です。そしていくつかの障壁を乗り越えた過程を評価します。

《高校生》

最近では大学の研究に匹敵するような研究が見うけられます。ところが審査員はいずれの分野においても最先端研究の現状を把握しているとは限りませんので、背景説明がしっかりとしたものをお願いします。その上で、ロジックがしっかりした研究を評価します。データが不足しているのはダメですが、過剰なものもよくありません。研究の方向性が常にはっきりとしていてほしいのです。

先ほどは研究が中途半端では良くないと言いましたが、高度な取り組みに対しては、明確な結果に至っていなくても、着眼点とアプローチに科学者の芽を感じたときは、高得点が与えられることがあります。英語による発表もうれしいですね。

本音はね

同じ分野の研究者たちが議論する学会と生徒たちの自由研究とは、見る目は全く違います。生徒たちが科学に興味を持ってくれる姿が微笑ましく、将来は彼らに科学者の道を歩んでもらいたいと思っています。だからこそ、結果よりも動機に興味があるのです。

本編は複数の審査員経験者のインタビューを参考にしました。感謝いたします。公平性のために協力者名は匿名とさせていただきます。

プロフィール

やすい みつくに
室蘭工業大学くらし環境系領域准教授
微生物の研究のほか、小中高の出前実験、講義、教員研修を広くしています。